

## 「あおなみ線」が開業したが

第三セクターの名古屋臨海高速鉄道が運営する「あおなみ線」開業から、3ヶ月余りが経過する。第三セクターによる鉄道経営が苦戦しているが、この地域でも例外ではない。

「あおなみ線」は名古屋駅から金城ふ頭間15.2キロを24分で結ぶ路線であり、当初、1日約6万6000利用者を見込んでいた。開業1ヶ月後の利用者数は、見込みを大きく下回る約2万5000人であった。開業した10月には、金城ふ頭にある市国際展示場「ポートメッセなごや」でITS世界会議が開催されたりしたが、目標には遠く及ばなかった。



写真は開業から1ヶ月ほど経ってから、平日の朝に名古屋駅から金城ふ頭駅まで行った時の終点近くの車内である。名古屋駅を出る頃には、座席はだいたい埋まっていたが、駅に着くごとに下車して、金城ふ頭駅では2～3人しか降りなかった。名古屋港の周辺などを高いところから眺められ、広々とした車内で「快適」な乗り心地なのだが、



11月の乗客数は見込みの3割の約2万人。10月よりさらに減って、会社でも「予想以上に少ない」と危機感を募らせているという。「あおなみ線」の沿線は、通勤時間帯でも渋滞が少なく、定期券を利用する通勤客がとくに少ない。マイカーからの乗り換えが進んでいないわけで、予想されたことだが、前途多難な出発といえよう。

(1月25日 記)